

第10回 鳴瀬川総合開発環境検討委員会 技術的助言

日 時 : 令和7年2月18日(火)

1. 調査結果及び今後の調査計画(案)について

(1) 水質

No	意見	回答及び対応方針
1	出水時調査は、湛水後の検討に影響してくるため、天候次第ではあるが今後機会を見つけて調査を実施し、積極的にデータを蓄積してほしい。また、出水時の調査の調査項目について、鳴瀬川ダムサイトではSSだけでなく窒素やリンについても実施してほしい。	出水時調査の調査実施条件の見直しや調査項目の追加を行う。

(2) 動物及び植物、生態系

No	意見	回答及び対応方針
1	漁獲されるサクラマスは2系統あり、アムール川や北海道から南下し大型の定置網で捕獲される傾向にある個体と、鳴瀬川に遡上し小型の定置網で捕獲される傾向にある個体である。漁獲量データを大型定置網と小型定置網と区別して整理できると良い。	宮城県水産技術総合研究センターから提供を受けたデータは大型定置網のみのものであり、小型定置網のデータ入手方法について今後検討する。
2	加美町におけるブナ・ミズナラの豊凶のデータがあれば整理してほしい。	漆沢ダム上流の中新田森林事務所(加美町)付近のブナ結実状況のデータが公開されている(ブナ等結実度データベース:森林研究・整備機構)(但し公開年度は1年遅れ)。これらのデータを参考に整理する。
3	本年度はミズナラが並作であったことを踏まえ、それらを利用する動物との関係を把握するための参考として、クマの出現状況についても県内の他地域と異なるか確認しておくが良い。宮城県ではミズナラの結実状況を公表しているので確認しておくこと。	クマの確認情報及びミズナラの結実情報の整理を行う。
4	ツキノワグマについて無人撮影による確認状況を整理し、ダム完成前の情報を収集してほしい。湛水後はツキノクマの行動が変化する可能性がある。	動物の生息状況の監視の調査時には、無人撮影法等によりツキノワグマの生息状況を把握し、整理する。
5	仮排水トンネルは、工事後にコウモリの生息地としても使用できると良い。	他のダムでの事例等を参考に、施設の安全性を確認した上で実施可能な対応を検討する。
6	ヤマネが湛水域内で確認された場合は保全措置を検討してほしい。湛水時は冬眠期を避ける、工事の進め方に配慮するなどの工夫してほしい。 湛水はヤマネの他、両生類や爬虫類にも大きく影響を与える。湛水域に生息する種を移動させる対策など、長期的な保全対策を検討してほしい。	工事中に天然記念物のヤマネが確認された場合の対応や、ヤマネをはじめ試験湛水による影響を受ける可能性のある生物への対応方針を検討する。

(2) 動物及び植物、生態系 (つづき)

No	意見	回答及び対応方針
7	昆虫類のヒメボタルの幼虫は陸産貝類を餌とする。ヒメボタルと陸産貝類の関係を今後のモニタリングの中で調べられると良いと考える。岩手県ではヒメボタルの群生地があり、資料が多いと考えられる。全国的にも知見があると考えられるため、知見や情報を整理した上で対応方針を検討すると良い。	知見や情報を収集するとともに、今後のモニタリングの中で、ヒメボタルと陸産貝類の確認位置を整理し、両者の関係や生息環境に関する考察を行う。
8	今後、長期的な変化を把握するため、底生動物のEPT指数(水質の影響を受けやすいカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目)を用いた種数や割合の整理などを実施してほしい。また、下流河川では出水の影響も受けやすいが、底生動物の造網型の種は安定度の指標となるため、生活型を使用した評価も検討してほしい。	令和6年度の調査結果について、EPT指数や底生動物の生活型区分等による整理分析を行う。
9	下流物理環境について、出水の影響とダムの影響が分かるような調査や評価の方法を今後検討してほしい。	今後も生態系典型性河川域の調査において下流物理環境調査を実施しデータを蓄積するとともに、調査や評価の方法を検討する。